

【問題】

症例：60歳代 男性。

主訴：検診での膵病変の指摘。

現病歴：平成16年12月の検診の際施行された腹部超音波(US)にて、膵体部に径2cm大の類円形嚢胞性病変を指摘されたため、当院紹介となった。

既往歴：3年前に大腸ポリープ切除。

入院時現症：身長170cm, 体重68Kg, 血圧148/78mmHg, 脈拍78回/分, 体温36.8℃, 結膜に貧血・黄疸を認めず, 胸腹部に特記すべき異常所見なし。

入院時検査所見：『末梢血』WBC：4700/ μ l, RBC：436万/ μ l, Hb：14.6g/dl, Ht：42.6%, Plt：21.0万/ μ l。

『血液生化学』T-Bil：0.7mg/dl, ZTT：7.1KU, GOT：21IU/l, GPT：36IU/l, ALP：163IU/l,

γ -GTP：20IU/l, LDH：379IU/l, ChE：202IU/l, 総蛋白：6.7g/dl, アルブミン：4.3g/dl, BUN：15.0mg/dl, Cr：0.8mg/dl, Amylase：76IU/l, CRP：0.02mg/dl, Na：138mEq/l, K：4.1mEq/l, Cl：103mEq/l, 空腹時血糖：102mg/dl, HbA1c：7.6%, CEA：2.7ng/ml, CA19-9：2ng/ml。

『腹部US』膵体部に類円形で径2cm大の嚢胞性病変がみられる。一部壁在結節様の所見が認められる (Figure 1A)。

『腹部CT』膵体部に薄い被膜を有し, 周囲が造影される類円形の嚢胞性病変がみられ, 内部に一部隔壁様構造を認める (Figure 1B)。

『腹部MRI・MRCP』膵体部の病変の内部はT1で低信号, T2で高信号を呈し, MRCPでは類円形の高信号を呈する。主膵管の拡張は認めない (Figure 2)。

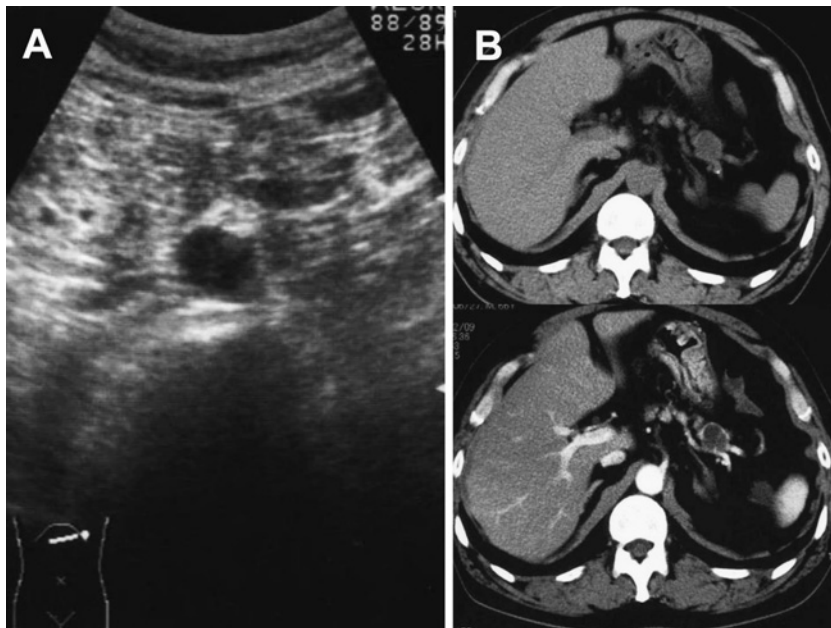


Figure 1.

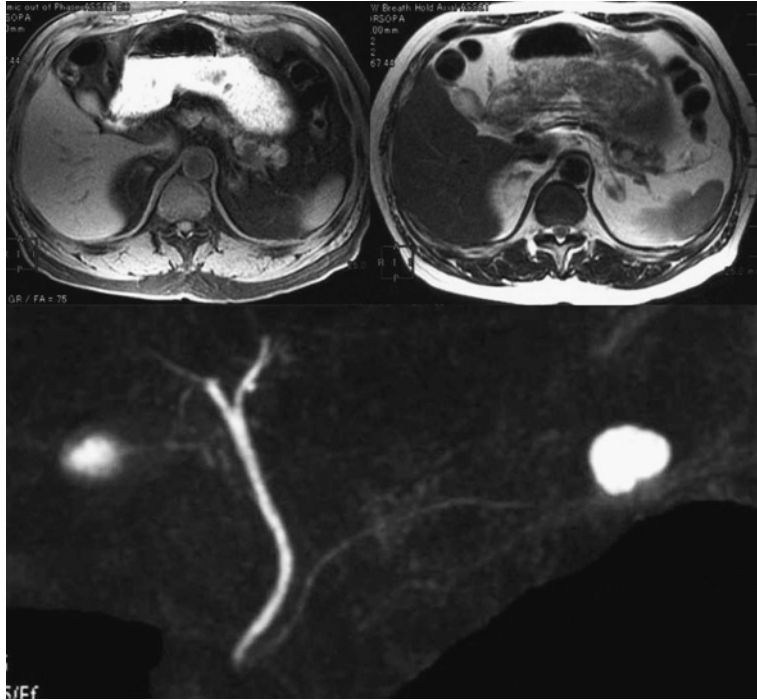


Figure 2.

1. 鑑別にあげるべき疾患は？
2. 確定診断, 鑑別のため必要な検査は何か？

解答は日本消化器病学会雑誌105巻3号をご覧ください